

図書室月報

2023年(令和5年)6月5日

第721号

〈図書室のつどい 参加者の感想〉

松田英子 著

『夢を読み解く心理学』を聴いて

猪爪 恵美子



夢を読み解く心理学と聞いてまず思い浮かべたことは、たまに見る不思議な夢の答えがあるだろうか、ヒントがあるのなら聞いてみたいという単純な思いでした。

夢占い、夢判断、夢は現実の理解を超え神秘的ですらあります。それに加え大学で心理学を講義されている方とはどんな方なのか、という好奇心もあり私は早めに席に着きました。

定時刻に姿を見せた松田先生は大学の教授というよりは、買い物ついでに寄りました的な風情で親近感満載です。明るい声、明確な語尾、そして楽しい話しぶりにすっかり引き込まれていきました。

夢って何だろう、願望、情報処理、シミュレーション、フロイトを始めいろいろな説をいろいろな学者が唱えています。それ程までに夢は関心を呼び、興味をそそのめるものなのでしょう。

話は予知夢の話に進んでいきます。なんとオカルトチックな響きでしょう。でも先生は論理的に説明をします。消防士の夢を多く見るといいます。でも夢は忘れられています。現実の火事の場面で似た夢を思い出し、夢に見た光景と同じと感じ、それを予知夢と思うとの事でした。納得です。

明晰夢も不思議な夢です。夢だと分かっている夢です。そして慣れてくると夢をコントロール出来るというから驚きです。

夢を見るもとなる睡眠へと話は進んでいきます。統計を取り始めた頃より日本人の睡眠時

間は一時間も短くなり、北欧の国より一時間ほど短いようです。原因はいろいろあるとの事ですが、時間は問題ではなく、睡眠の質に問題があるようです。日本人の多くが睡眠不足を感じています。日本人の睡眠時間の短さを勤勉ととらえるかライフ&ワークのバランスが取れていないと見るか、見方はそれぞれですが、女性が更に短いと聞くとワンオペ育児と仕事に追われているのではないかと、疲れているのではないかと心配になります。

睡眠は時間ではなく質と聞き、本人がスッキリしていれば良いと納得はするものの、習慣になると睡眠不足を自覚しづらくもなるようです。睡眠不足は将来の肥満、高血圧、糖尿病の発症リスクを高めると聞いて睡眠の大切さを再認識しました。

先生ご自身の夢の話は研究を続ける際の不安や心細さの中、「太陽と月を抱いて走る」は何かしらの希望を示唆して、研究を続ける心の支えになったのだと思います。二十五年後両手に抱いていた物は太陽と月だと確信し両手で触れて実感したという感覚は先生の研究が形を成しこれが太陽と月であったと改めて感じたものなのでしょう。

年の瀬の慌ただしい時にも拘らず満席の聴衆に対して、先生は夢に関心を持つ事は夢を持ち続けること、心地良く生きる事のヒントになる、そんな言葉を届けてくださいました。

(ディスカバー・トゥエンティワン)

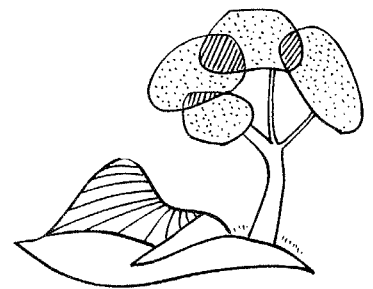
〈図書室のつどい 参加者の感想〉



松崎元樹著

『東京の古墳を探る』を受講して

深見弘



古墳時代(3〜7世紀)は、NHKの大河ドラマの題材になったことがなく、昔の教科書には「古墳文化」は書いてあるが「古墳時代」とは記述されていないので、歴史的出来事として何があったかピンとこない人もいるのではないのでしょうか。

群は崖線の端部にあり、南側が開けていて見晴らしがよい所に造営されています。国立市域にもそれなりのリーダーがいたことが伺えます。

講演では東京は畿内から離れていて、文化は地方圏独自のものがあり、東京の古墳時代は前方後円墳だけでは語ることができないことが紹介されました。

6世紀は武蔵の首長の拠点が武蔵南部(東京)から武蔵北部(埼玉)に移っていったため、群馬(観音山古墳等)や埼玉(さきたま古墳群)では100m級の前方後円墳が造営された。一方、武蔵南部(東京)では6世紀以降になると大型の前方後円墳は造営されなくなり、規模の小さい石室群集墳や、段丘や台地の斜面に横穴墓が作られるようになった。国立市にも谷保東方横穴墓が立川崖線の段丘崖にあります。

横穴墓の造営者は墓の規模からみて支配エリアがそれほど広くない中から中・小クラスの豪族だったと思われる。が、石を巧みに組上げて墓室や通路を朝鮮半島由来の様式を取り入れるなど手の込んだ造りになっている。また、倭王権が同盟関係を結ぶことを目的に分配した、貴重な銅鏡や装飾付大刀などの金属製品が副葬品として出土していることを考えると畿内豪族との結びつきやネットワークがあることが推測される。これは、中央に服従する地方という図式だけではない、生き生きと主体的に生きた在地の豪族がいることを思い描くことができるという話にはロマンを感じられました。

会場から次のような質疑応答がありました。

Q1) 古墳は当時の人々にとってどういう場所に造られたか。↓(A) 古墳はある程度は生活圏に作られた。が、生活するのに困難な場所に古墳が多くある場所もある。

マ下湧水の崖の上、下谷保古墳群は常盤の清水(谷保天)、谷保東方横穴墓は西府緑地の湧水の近くであり、人々が生活していた所付近と考えられる。つまり古墳が有る所はまさに古代の人々の生活の営みがあった場所であり、時間を経て同じ場所に現代人が同じく立っていると考えるのはある意味愉快なことだと思います。

Q2) 横穴墓は古墳と比べて目立たないので、内装に凝ってもステータス表示にならないのではないか。↓(A) 古墳のようにモニュメントにならなくても造営に人手をかけたことや墓の伝統を踏襲したことは人伝に伝わる。また、墓室入口を石積にすることは中の墓室の立派さが想定できる。

多様な埋葬様式を学び、結論として「見解は色々あるうが、小古墳(横穴墓)の解明なくして東京の古代史は語れない」という話は、伺っていてそのとおりだと納得できる講座でした。(吉川弘文館)

古墳は生産、軍事、祈祷等を司っていた権力者や指導者等の墓で、構造形状、規模や意匠に多種多様なものがあります。国立市においても、谷保でいくつもの中小規模の古墳を見ることができ、円墳の四軒在家古墳群や下谷保古墳

新着図書から

〔総記〕	本屋で待つ	佐藤友則 (夏葉社)	024	ルポ虐待サバイバー	植原亮太 (集英社)	369
	わたしは「ひとり新聞社」	菊池由貴子 (亜紀書房)	070	「特攻」を子どもにどう教えるか	山元研二 (高文研)	375
〔哲学 心理学 宗教〕	宗教からアメリカ社会を知るための48章	上坂昇 (明石書店)	162	柳田國男のペン	茂木明子編著 (慶友社)	380
	〔歴史〕			「おふくろの味」幻想	湯沢規子 (光文社)	383
	731部隊と1000部隊	加藤哲郎 (花伝社)	210	〔自然科学〕		
	フリチョフ・ナンセン	新垣修 (太郎次郎社エディタス)	289	南極の食卓	渡貫淳子 (家の光協会)	402
	平和憲法をつくった男	仁昌寺正一 (筑摩書房)	289	ウイルスとは何か	長谷川政美 (中央公論新社)	465
〔社会科学〕				私の夢はスイスで安楽死	くらんげ (彩図社)	490
	ベルリンを知るための52章	浜本隆志 (明石書店)	302	〔普通〕 ってなんなのかな	ジョリー・フレミング リリック・ウイニック (文藝春秋)	493
	猿声人語	山極寿一 (青土社)	304	〔工業〕		
	教えて南部先生! 18歳までにおきたい選挙・国民投票Q&A	南部義典 (シーアンドアール研究所)	314	現代適正技術論序説	田中直 (社会評論社)	504
	政治と宗教	島菌進 (岩波書店)	316	ウクライナの家庭料理	平野颯子 イーゴキヤブシヨ	596
	アーレントと革命の哲学	森一郎 (みすず書房)	316	〔産業〕		
	ウクライナの現場から	佐藤和孝 (有隣堂)	319	育ちすぎたタケノコでメンマを作ってみた。	玉置標本 (家の光協会)	616
	日本に住んでる世界のひと	金井真紀 (大和書房)	334	〔芸術〕		
	ぼくたちクルド人	野村昌二 (合同出版)	334	ちひろ美術館の窓から	松本猛 (かもがわ出版)	726
	フォビアがいつぱい	高山陽子編 (春風社)	361	ぼくは戦争は大きらい	やなせたかし (小学館クリエイティブ)	726
	これからの「社会の変え方」を、探していこう。	田口未和ほか訳 (SSIR Japan)	361	〔文学〕		
	消費者をケアする女性たち	満園勇 (青土社)	366	朝星夜星	朝井まかて (PHP研究所)	91あ
	女性の歴史を変えたモノ事典	マギー・アンドリュース ジャニス・ロマス (終風舎)	367ア	李良枝セレクション	李良枝 (白水社)	91イ
	男性危機 (メンズクライシス)	伊藤公雄 (見洋書房)	367	路畧	千葉紫寿 (風詠社)	91ち
	いいね! ボタンを押す前に	治部れんげ (亜紀書房)	367	好きになっちゃいました。	三浦しをん (大和書房)	91み
	占領期の性暴力	芝田英昭 (新日本出版社)	368	短歌のガチャポン	穂村弘 (小学館)	911ほ
				〔武漢日記〕が消された日	マイケル・ベリー (河出書房新社)	93べ

〈青年講座〉

コーヒー焙煎体験講座

～一緒にコーヒーを淹れてみよう～

講師 ^{おやま} 小山伸二 (辻調理師専門学校、^{しよしあずさ} 書肆梓)

7月2日(日) 昼4時～6時

講座の詳細は公民館だよりをご覧ください。



講座参考図書

- * コーヒーについてぼくと詩が語ること 小山伸二 (書肆梓)
- * コーヒーハウス 第1～73号 国立市公民館青年室編 (国立市公民館)
- * コーヒーとコーヒーハウス ―中世中東における社交飲料の起源 ラルフ・S・ハトックス (同文館出版)
- * コーヒーが廻り世界史が廻る―近代市民社会の黒い血液 臼井隆一郎 (中央公論社)
- * コーヒーの歴史 マーク・ペンダーグラスト (河出書房新社)
- * コーヒーの科学 ―「おいしさ」はどこで生まれるのか 且部幸博 (講談社)
- * ホーム・コーヒー・ロースティング ―お家ではじめる自家焙煎珈琲 嶋中芳 (集英社インターナショナル)
- * 珈琲事典 ―この1冊で豆・焙煎・淹れ方がわかる 田口護監修 (学研プラス)

図書室で読める雑誌

〈月刊誌〉

中央公論
文藝春秋
東京人
世界
婦人之友
母の友
教育
月刊公民館
月刊社会教育
社会教育
月刊福祉
きょうの健康
栄養と料理
芸術新潮
& プレミアム
音楽の友
山と溪谷
本の雑誌
現代詩手帖
新潮
図書
ちくま
みすず
未来

〈週刊誌・週刊紙〉

AERA
週刊文春
図書新聞
週刊読書人
〈その他〉
婦人公論(月2回刊)
キネマ旬報(月2回刊)
サライ(月2回刊)
ふえみん(月3回刊)
多摩のあゆみ(季刊)
明日の友(隔月刊)
Chio.ちいさい・おおい・よい(隔月刊)
くらしと教育をつなぐWe(隔月刊)
暮しの手帖(隔月刊)
〈外国語新聞〉
東亜日報(ハンブル)
人民日報(中国語)
ジャパン・タイムズ(英語)
〈外国語雑誌〉
新東亜(ハンブル)
青年文摘(中国語)
読者(中国語)
タイム(英語)
ひらがなタイムズ(日本語と英語)



〈私の本棚から 第3回〉 五木寛之著

『雨の日には 車をみがいて』

今村 三郎



今年も、中国大陸から偏西風に乗せて、あまり嬉しくない贈り物が送られてきました。

いわゆる黄砂と呼ばれるもので、車を水洗いする必要があり、洗車場に日参する人たちが見受けられました。私の故郷では、黄砂ではなく、火山の灰のために、同様な光景がみられます。他人事のようにその様子を見ていて、表題の本を思い出しました。

この本は五木寛之の名とタイトルにひかれて、読み始めたものです。昭和のしゃれた外車と異性との出会いと別れの、9つの話からなっています。「ぼくはこの本におさめた物語を、じつに楽しみながら書いた」。「さまざまな車に思いを寄せる友、そして未知の異性との出会いを夢見るすべての読者に、この本を捧げる」と著者のあとがき(エピローグ風の)にあるように、私にとっては現実には決してありえないことを、著者は楽しんで書いているように感じられます。実際、この本のファンは多く、2度にわたる文庫化がなされ、2022年には改定新装版が幻冬舎から発行されています。

初めて読んだのは私が車に乗り始めてだいぶたち、新車に乗り換えようかというときです。最初の車は国産の、それも中古で、もうすぐ走行距離10万kmにならんとするものでした。部分的に塗装がはがれており、新妻を迎えるにあたり、格安で塗装をし直してもらいました。しかし、新婚のマイカーとはお世

辞にも言えないものでした。ですから外車は夢のまた夢、洗車も怠けて、ろくにしていない状態でした。

初めて読んだとき、第1話の「たそがれ色のシムカ」が心に残りました。主人公は時代の花形であるマスコミに籍を置き、外車に乗るスマートさと、付き合った女性、揺子の魅力にひかれました。車はけなしのお金で買ったフランスの大衆車で中古でした。色は再塗装し、たそがれ色です。いっぽう、揺子は一言多いタイプの女性です。彼女の一言が彼女に成功への片道切符を手渡してくれたのです。しかし、その切符を残酷に取りあげたのも、また彼女の不用意な一言でした。それがタイトルにもなっている「雨の日には車をみがいて」です。

最近、私は免許更新したのですが、都内に移って車も売り、めっきり運転しなくなりました。新婚の息子は去年、車を買いました。同乗させてもらいましたが、結構良い買い物をしたようです。前車の轍(ぜんしゃのてつ)は踏んでいなかったようですね。

(角川書店)

くにたちブッククラブ

—記憶の欠片をひろい集めて—

山田詠美

『ファーストクラッシュ』

(文春文庫)

講師 榎本正樹

(文芸評論家・現代日本文学)

とき 6月8日(木)

夜7時半～9時半

ところ 公民館 地下ホール

申込先 公民館 ☎(572)5141

*次回は7月13日(木)
佐藤泰志『きみの鳥はうたえる』
(河出文庫)です。

